

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術科 科目 書道Ⅱ

教科： 芸術科 科目： 書道Ⅱ 単位数 2 単位
対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組
教科担当者：（1～7 組：田中）
使用教科書：（書2 光村図書）

教科 芸術科 の目標：
【知識及び技能】知識を付け、技能を学んでいるか。身に着けた技能を活用している。
【思考力、判断力、表現力等】理解していること、出来ることをどう使っている。
【学びに向かう力、人間性等】知識・技能の獲得、思考・判断・表現力を身に着けることに粘り強く取り組んでいる。

科目 書道Ⅰ		の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書能力を向上させ、用具用材の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。	生徒自ら書の良さや美しさを感じ、学び考える。そして書で表現する。	主体的に書に関心をもち、書の幅広い活動に取り組む力をつける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			漢 仮	漢	仮	鑑 賞					
2 学 期	漢字の書 文字の造形と漢字の変遷について理解させる。	文字の造形と漢字の変遷について学ぶ。		○		○	黄河文明の文字として生まれた漢字が時とともに様々な書体に変遷したことを理解することができたか。	○	○	○	12
	篆書 篆書の主な特徴（甲骨文・金文・大篆・小篆）を理解させる。 小篆は秦時代始皇帝によって制定された公式書体である。	篆書の主な特徴（甲骨文・金文・大篆・小篆）を学ぶ。 小篆は秦時代始皇帝によって制定された公式書体である。		○		○	長く篆書の表現の規範として尊ばれた古典を通して篆書の用筆や運筆を学ぶことができたか。	○	○	○	12
	隷書・草書 篆書が実用に即して簡略化された書体である隷書について理解させる。 篆書や隷書の速書体として生まれた草書について学ぶ。	篆書が実用に即して簡略化された書体である隷書について学ぶ。 篆書や隷書の速書体として生まれた草書について学ぶ。		○		○	隷書・草書の特徴である筆脈によって生み出される多様な字形・抑揚を利かせた用筆で臨書することができたか。	○	○	○	12
3 学 期	行書・楷書 隷書の速書きとして生まれた書体である行書について理解させる。 楷書について理解させる。	隷書の速書きとして生まれた書体である行書について学ぶ。 楷書について学ぶ。		○		○	行書・楷書それぞれの書体の成立や特徴を学ぶことができたか。	○	○	○	12
	仮名の書 漢字仮名交じりの書 篆刻・刻字 連綿・墨継ぎ・変体仮名など各書体の特徴を生かさせる。 古典の書風を生かして創作して書く。 印の歴史を確認し、多彩な表現を楽しむ。	連綿・墨継ぎ・変体仮名など各書体の特徴を生かす。 古典の書風を生かして創作して書く。 印の歴史を確認し、多彩な表現を楽しむ、姓名印などを創作する。				○ ○	漢字の音を借りて日本語を表記したものが仮名であること。仮名の種類や特徴を理解する事ができたか。	○	○	○	18